

島立地区住民意向アンケート調査報告

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

令和8年2月

島立地区町会連合会、島立地区社会福祉協議会では「住んでいて良かった」と思える地域づくりに向けて令和6年に皆さんの生活の様子やご要望をお伺いするためアンケートを実施しました。

資料のデータ入力および分析は松本大学大蔵研究室を中心に実施していただきました。

大変お待たせいたしました。アンケートの結果についてご報告いたします。

島立地区町会連合会

実施方法：回答用紙を一か所3枚づつ地区エリア郵便で送付、返信用封筒による回収 無記名での回答

回収結果：3,198通(9,594枚)発送、1,477枚が回収

調査方法上の問題から正確な回収率を算出することはできない。

※参考までに、アンケートを発送した令和6年11月1日時点での島立地区の世帯数は2,926

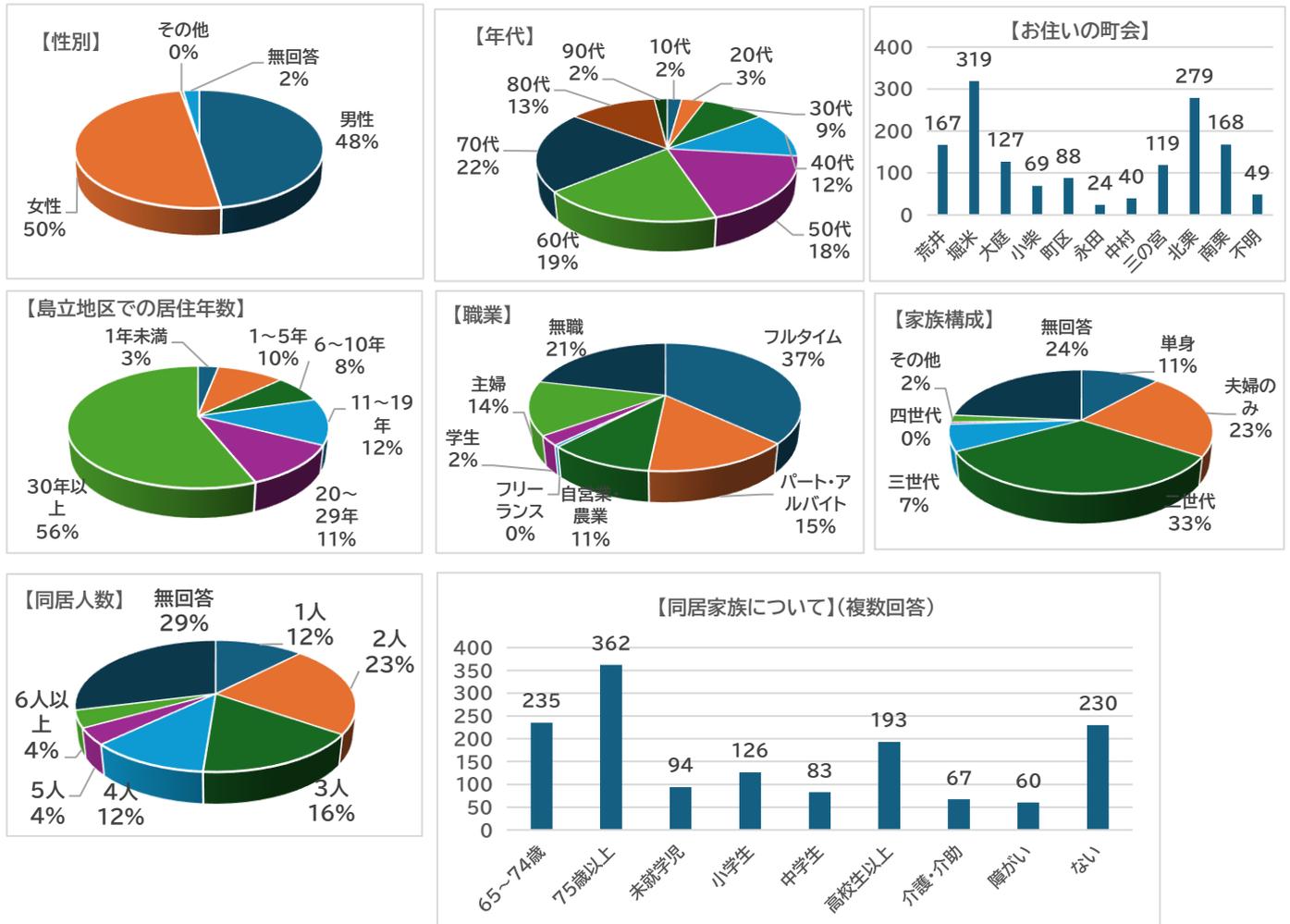
世帯、人口は6,591人

1. 回答者について

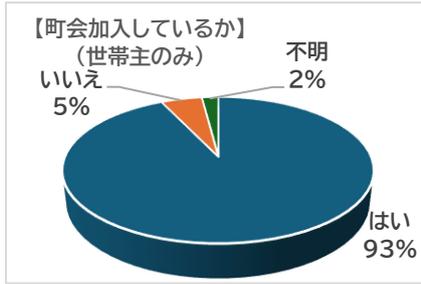
島立地区に30年以上暮らしているという回答が半数以上ありました。

家族構成は、二世帯で暮らしているという回答が多く、次いで夫婦のみという回答が多くありました。

65歳以上の方と同居しているという回答が半数以上ありました。



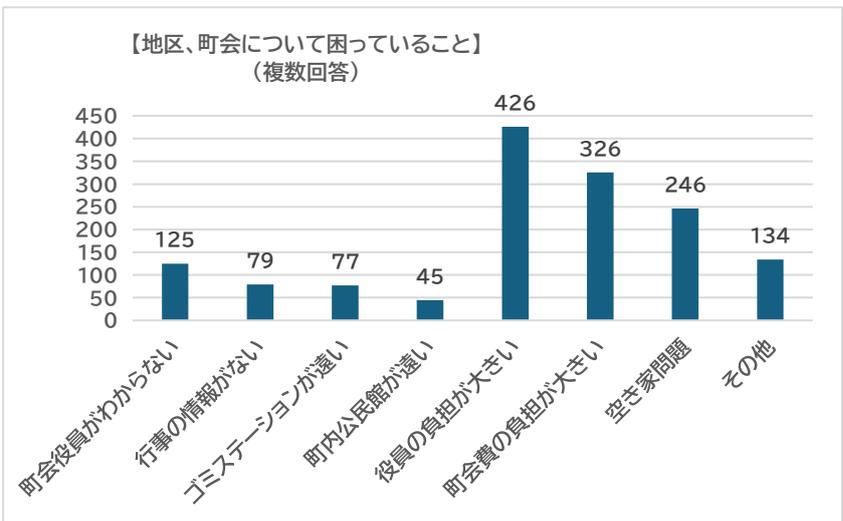
2 地区、町会に対する意識



93%の方が町会に加入していますが、加入していない方が5%ありました。町会に加入しない理由としては、「町会活動に参加したくない」「役員を頼まれたくない」「町会費が負担」「必要性がない」「アパート・賃貸住宅のため」という回答が多くありました。

地区、町会で取り組んでほしい活動については、「防災対策」「高齢者支援」「子育て支援」が多くありました。自由記述では空き家対策、道路歩道の整備、特殊詐欺、訪問販売など防犯対策があがっています。「(取り組んでほしい活動がない)」「(上記の活動すべて)行政がやるべき」「町会の解散に向けた会議」「子どもたちの活動が小学生でストップそれ以降は全くかかわらない」「地区町会からの働きかけが必要」「若者はどんどん離れている」という意見もありました。

地区、町会について困っていることとしては、「町会に加入しない」という人の理由とも共通して「役員の負担が大きい」「町会費の負担が大きい」という回答が上位となっています。「空き家問題」に困っているという回答も多くありました。



町会連合会に期待することは、「地域課題の解決」「役員の負担軽減」が多くありました。

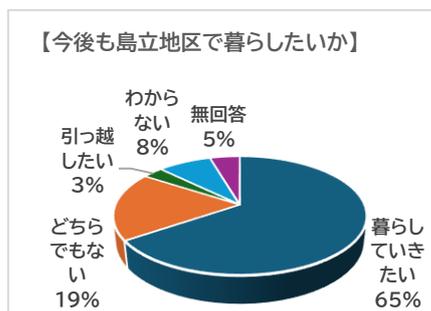
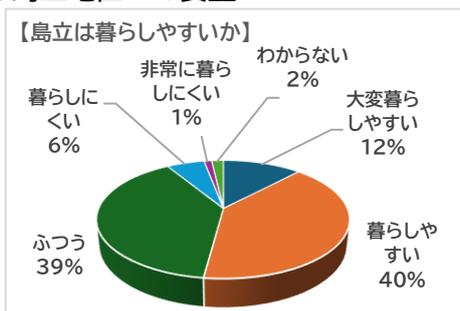
地域情報に関係して、回答者が常に読んでいる媒体については、「広報まつもと」「地域だより」「公民館報」が多く、自由記述では SNS などスマートフォンやパソコンを活用した情報発信を求める声もありました。

3 地区・町会事業について

参加している行事活動については「町会・町内公民館の行事」が一番多くありましたが、次いで「参加したことが無い」という回答が多く、その理由としては、「時間がない」「興味がない」という回答が多くありました。

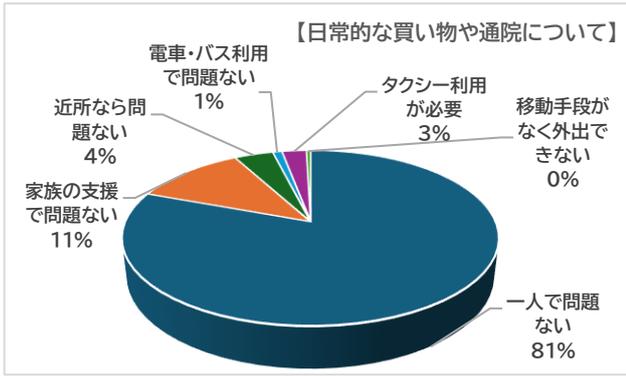
今後参加したい活動は、「特になし」という回答が最も多く、次いで「町会・町内公民館の活動や行事」でした。その他の回答では、時間不足や高齢化、役員の負担などによる参加困難の回答もありました。

4. 島立地区への要望



島立は暮らしやすいかという設問への回答は「暮らしやすい」「ふつう」が上位を占め、「今後も暮らしていきたい」という回答が大半を占めています。

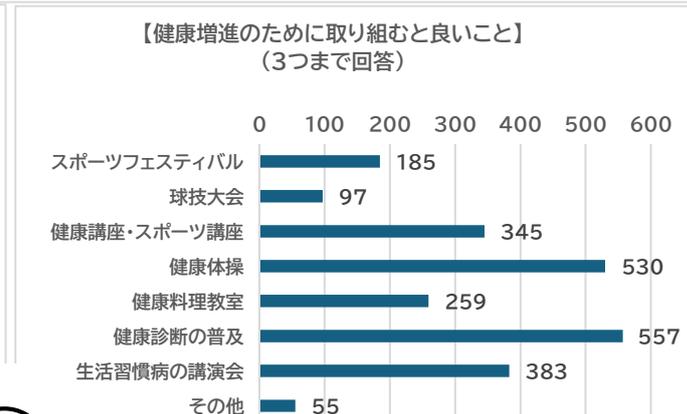
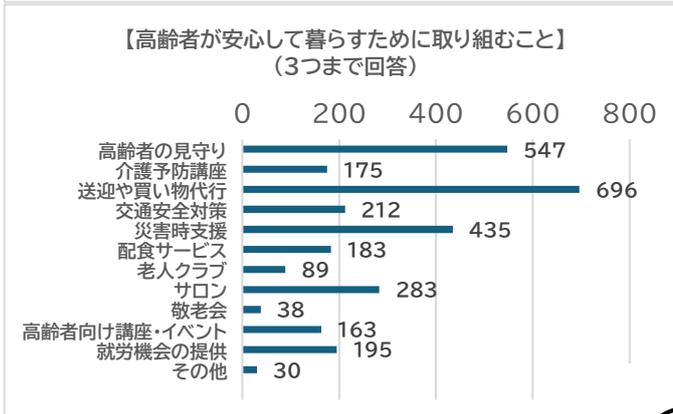
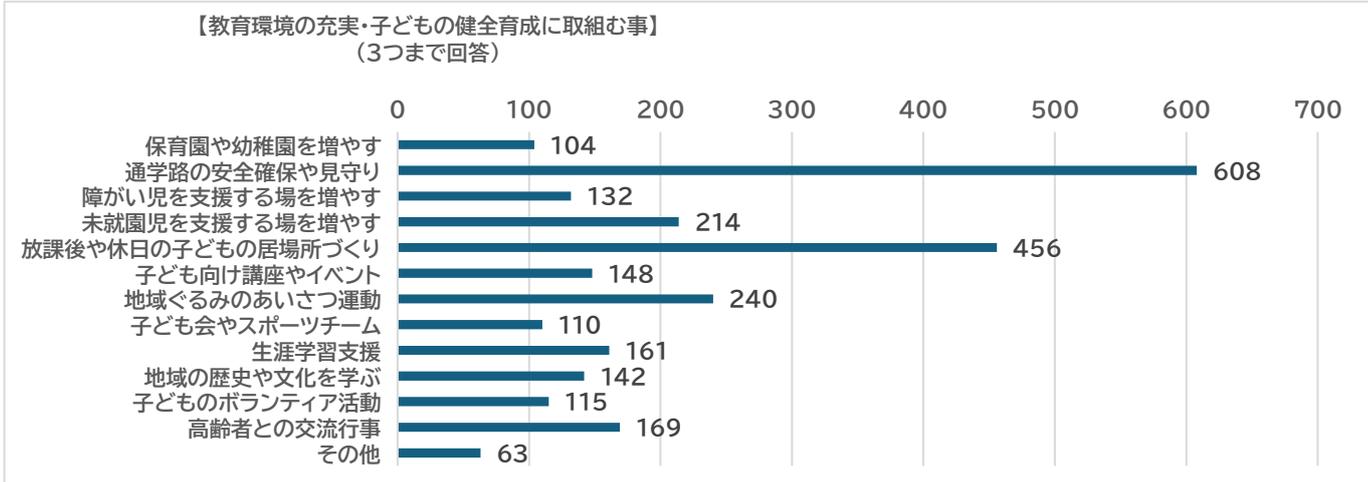
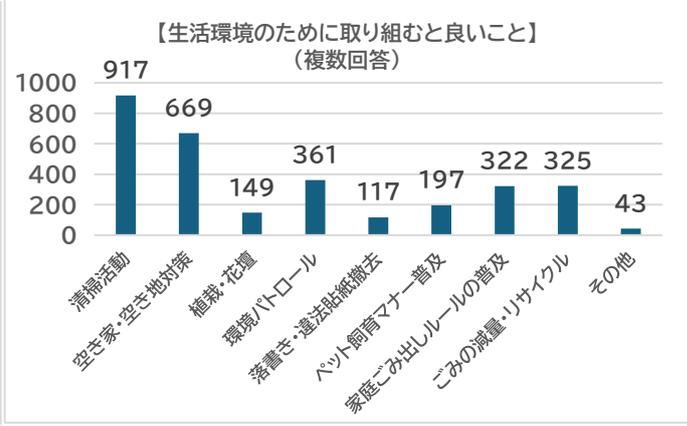
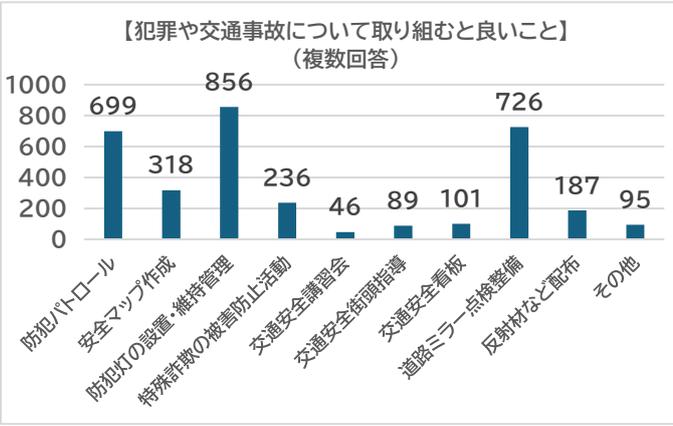
暮らしやすい点、暮らしにくい点の自由記述では「電車、バス、高速道路などの交通の便が良い」「買い物、病院が近い」などインフラ面での暮らしやすさを評価する意見が多く見られました。一方、「近くに買い物できる店がない」「車がなければ不便」「道路が狭い」「街灯が少なく暗い」という意見も多く見られ、周辺環境の差によって感じ方の差が出たと見られます。暮らしにくい点として地域の活動の負担感についての意見も複数見られました。



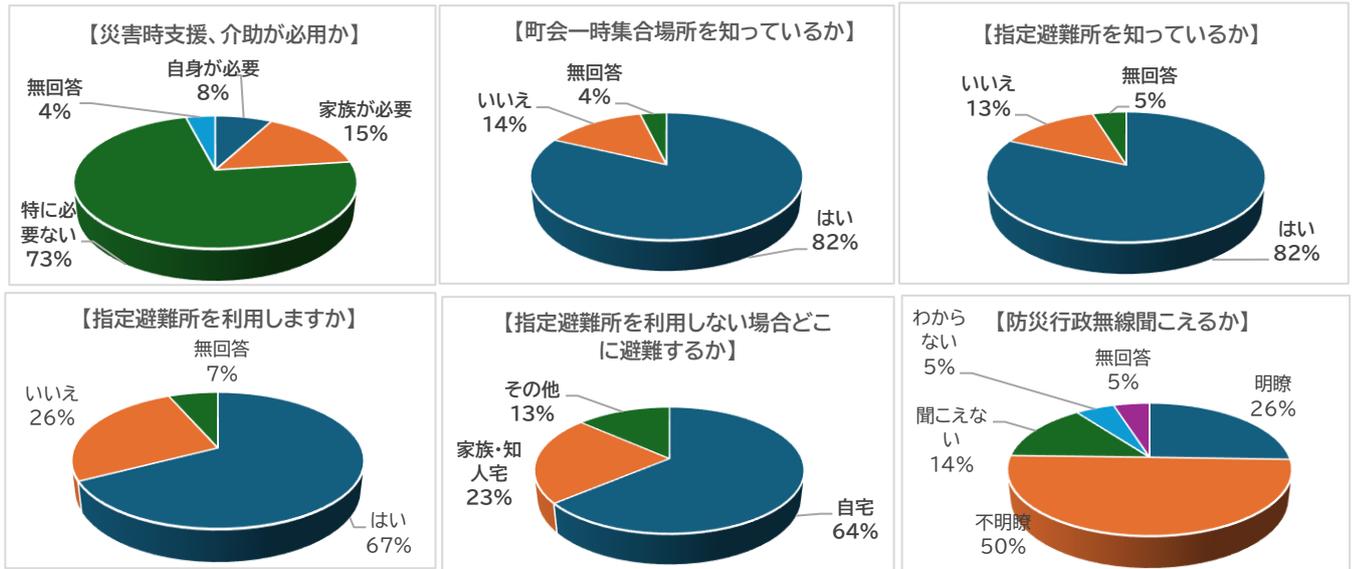
日常的な買い物は、「今のところ一人で問題ない」という回答が多くありましたが、自由記載で「高齢化や免許返納後の不安」が多くあり、「バスの本数不足」「スーパー・コンビニ不足」などの記載もありました。

次は取り組むとよいことについての設問への回答です。

次は取り組むとよいことについての設問への回答です。

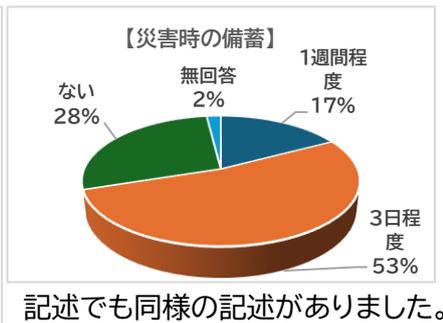
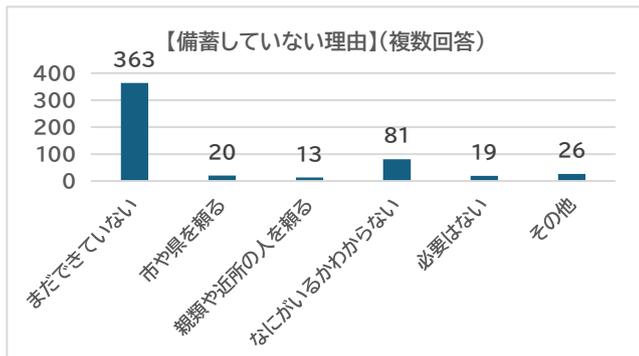


5. 災害への取り組み



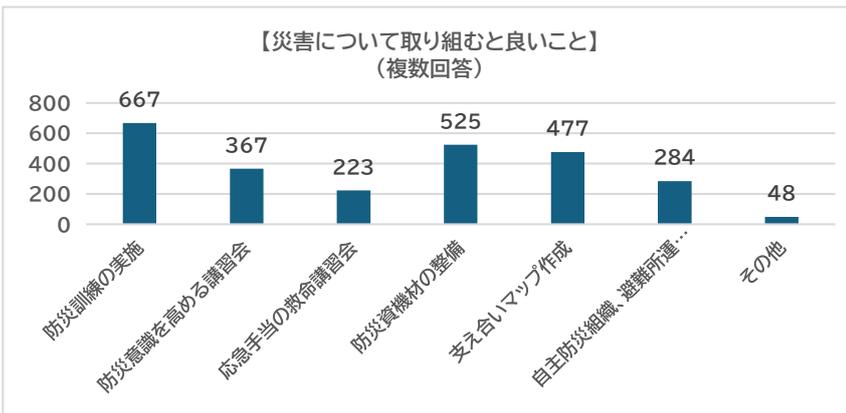
指定避難所を利用しない場合のその他では「親族」「職場(出勤する)」の回答が多くありました。

次に災害時のための備蓄についての設問について見ると、三日程度あるいは一週間程度の備蓄があると回答が多くありました。備蓄をしていない人もその理由は「備蓄をするつもりはあるがまだできていない」という回答が最も多く、備蓄への意識は高いといえます。



防災行政無線について明瞭に聞こえると回答した人は26%程度しかおらず、聞こえないまたは不明瞭という回答が多くありました。地区への要望の自由

記述でも同様の記述がありました。



災害について取り組むと良いことについては「防災訓練の実施」「防災資機材の整備」「支えあいマップ作成」という回答が多くありました。その他の回答として「コミュニティーの構築・顔の見える関係づくり」という回答もありました。

6 まとめ

防災対策や高齢者支援、清掃活動などの取り組みが期待されています。

また、防犯や交通事故への取り組みとして防犯灯の設置・維持管理や通学路の安全管理や見守り、清掃活動なども必要とされています。

高齢者による運転断念時の生活への懸念が大きいようです。高齢者の暮らしを守るためにも送迎や日常生活の支援を行うボランティア活動の充実や支援も必要です

町会未加入の理由としては、「町会活動に参加したくない」「町会費が負担」「役員を頼まれたくない」が同率です。町会には役員負担の軽減や活動の簡略化・行事削減が求められていますが、参加したくなるような行事の検討や役員の負担軽減を真剣に検討していく必要があると見られます。